

平成30年度市政懇談会の主な質疑内容（気仙沼地区）

<p>旧市立病院の跡地管理をしっかりとしてほしい。また、跡地問題の期限はいつまでなのか。議論を進める時は、近隣自治会や住民だけではなく、広く市全体から意見を聞いてほしい。</p>	<p>市長： 今、残っている施設の養生は、しっかりやっています。期限については、新庁舎基本構想を作るための有識者会議が始まりました。まだいろいろ整理している段階です。その中で位置についても議論されます。この場所になるとも、ならないとも決まっています。来年 9 月までと考えています。議論の進め方は検討しますが、市民や有識者会議などからのご意見を一緒に考えていきます。</p>
<p>もともと、市立病院を移転する際に、建物や跡地の利用計画はあったのか。</p>	<p>市長： 当時の計画書では「耐震化している建物は何かに使え、耐震化していない建物は壊しましょう」くらいで、詳しくは書かれていませんでした。しかし、建物を残しても福祉や介護の施設で使うには大きすぎます。今回の調査ですべて壊すことも想定しました。</p>
<p>その経費の財源は現時点で、どう考えているのか。</p>	<p>市長： 解体するためだけに使える補助金はありません。公共施設の性質によって使える補助金があるかもしれませんが、また公共施設であれば、合併特例債の残枠があり、市の負担を 3 割強で建てられます。かつてそれは、合併特例債利用計画に入っていました。もう一つ、同じ場所に建て替えするなら、解体費用は建設費用に含めることができますが、基本構想もまだなので、金額の根拠が無い状況です。</p>
<p>市内の避難行動要支援者は何人いるのか。個別計画に 3 年前から取り組んでいるが進まない。市民の防災意識が低下していることも原因ではないか。</p>	<p>社会福祉課長： 現在、市で把握しているのは 1,423 名。そのうち、名簿提供に同意を得ているのは 703 名。さらに個別計画策定済みが 88 名。まだまだこれからの状況。自治会より「事務的作業が大変」と声をいただきましたので、嘱託員 2 名を採用し取り組んでいます。力を入れて推進していきます。</p>
<p>「自治会等で実施する安否確認や避難訓練の取り組みへの支援」とあるが、具体的には何か。</p>	<p>危機管理課係長： 安否確認訓練は住民名簿情報に基づいて各戸を訪問していただく。避難訓練は、要支援者の実際の避難ルートや方法などを確認していただきます。市でもアドバイスしていきます。</p>

<p>人口減少について、どのような取り組みをしているのか。</p>	<p>市長： 産業再生戦略課を作り企業誘致を行い、地元の中小企業には振興条例を作っています。さらに条例を作るだけではなく、具体的に何をしていくのかを話しあう場を作ります。 子どもの少子化対策として「プロジェクト 1.90」に取り組んでいます。さまざまな施策がありますが、婚活や不妊治療などを支援しています。 また、移住・定住支援として、気仙沼市移住・定住支援センター「MINATO」を作り、すまいと仕事を紹介しています。空き家バンクも作り、改修費を補助しています。 人口減少対策として、ひとつの決め手は無く、すべてをやっています。</p>
<p>市民が何か提案があるとき、各担当部署を個々に案内するのではなく、窓口を一本化してほしい。市長の考えを引き継ぎ、すべての窓口を代表できる職員を育ててほしい。</p>	<p>秘書広報課長： 市民相談室を設置しています。ご利用ください。 市長： 人材育成として人事ルールを作りました。市の仕事を4つに分け、そのうち3つを若い時に経験させます。その後に専門性を持った職員を育てていきます。</p>
<p>現在の市役所の場所は、駐車場含めて、地形的に利用しにくい。建物の構成も分散していて利用しにくい。第二庁舎の建物は古すぎる。</p>	<p>市長： 新庁舎構想の中でも、交通のアクセシビリティが大切であることと、ITを利用してなるべく来庁しなくとも自宅で用足しができるようにとの話しが出ています。庁舎の利用方法や性能を含め、さらに検討していきます。</p>